

# 第13回「日本語大賞」

テーマ「 」に伝えたい言葉

高校生の部 優秀賞 受賞作品

## 過去の私へ

東京都  
東京都立豊多摩高等学校  
一年 浪花 小槇

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

いつからか、誰かに褒められても上手く喜べなくなりました。お世辞や上辺だけの言葉に感じてしまって、素直に受け取れません。

いつからか、自分を卑下するようになりました。褒めてもらった時の返答によく使っていました。面白く会話が出来なくて、自虐に逃げていました。しかし、その自虐行為を否定されないことにも、傷ついてしまいます。自虐と同じようなことを他人に言われても、傷ついてしまうのです。

自意識が育ってきたからでしょう。思春期によくある話です。自己の存在を認識すると同時に、自分自身が恥ずかしくてたまりませんでした。

自分の絵が嫌いになりました。私は絵を描くことが昔から好きですが、絵が上手く描けないことに不満を抱くようになったからです。自らの理想と現実の間に大きな差があります。そして、私の友人は、上手な絵を描きます。私自身が到底描けないレベルの高い作品を作り上げます。そんな友人と比べられることに、耐えられませんでした。誰も私を蔑みはしなかったのですが、私は馬鹿にされているように思っていました。

本当は、誰かに褒めてもらえると、とても嬉しいです。本当は、自分自身を大切にしたいです。ただ、それを自分自身で否定してしまって、上手くできません。良い評価をもらいたいと思っているのに、他人の評価を受け取れることができないのです。ひねかれている、と言ってしまったらそれまでのことです。しかし、そのひねくれには名前がありました。

それは「尊大な羞恥心と臆病な自尊心」です。中島敦の山月記を読んで、この言葉を知りました。こんなにもストン、と心に染み入った言葉はありませんでした。見下されることが恥ずかしくて他人を自分の脳内で貶め、自分を否定されることが怖くて自らを貶す発言をしている私を、的確に表現していたからです。プライドが高くて、傷つくことを極端に恐れている心に名がただけですが、私はこの言葉に救われました。だから、過去のあなたに届けます。山月記を読んでください。敵を知り己を知れば百戦危うからず、です。この心は私の一部で、敵ではありませんが、自分を傷つけることが多くあるからです。また、山月記が多くの人に共感されていることで、私だけの問題ではないことを知れます。自分しか考えていないことは、この世の中でほぼありません。プライドを保とうとする自分自身を嫌いにならずにすみません。

虎になった李徴は自分自身を醜い、と評します。ですが、他人から見ればそんなことはいのです。私自身もそうかもしれせん。彼は虎になってからも、羞恥心と自尊心を捨てきれずにいました。姿形の変わらない私が、簡単に意識を変えられることはないと思います。しかし、自尊心の臆病さ、羞恥心の尊大さを助長させないことは出来るはずで。恐ろしいことに、臆病な自尊心は人を貶めることで存在を保とうとします。尊大な羞恥心は私自身のことを嫌いにならない原因の一つです。

私は自己評価にも、他己評価にも満足出来ませんでした。どちらも、理想が高すぎて、現実とのギャップが生まれていたからです。自分への評価基準が低すぎるのが問題でした。認知が歪んでしまいました。ただ、他人を見下すことでしか心を保てない認知など、必要ないので。謙虚さは美德ですが、自虐とはまた別物です。それらの意識を少しずつ、変

えています。

絵を描いて、評価されることは怖いです。ただ、そこを乗り越えなければなりません。乗り越えるために必要なのは自信です。自分で納得できるようなものを作り上げることです。友人に嫉妬するのではなく、まず絵を満足できるまで描いてください。少しでも理想に近づけられるように努力してください。私は今、理想を現実にするために努力しています。ただ、努力は積み重ねですので、昔から絵を好きなように描いておけば良かったと後悔しています。私はきつと、これからも「尊大な羞恥心と臆病な自尊心」を抱えて生きていきます。けれど、せめて、虎になりうるその心を膨張させないでください。誰かを傷つける前に、私のこととを大切にしてあげてください。今の私自身も、あまり出来ていないことです。自分自身の高すぎる理想と、上手く付き合っていないてください。その理想に当てはまらないからと言って、私は劣っている訳ではありません。私のことを支えてくれている人がいます。私のことを好きだと言ってくれる人がいます。決して、自分のちっぽけで役に立たないプライドのために、その人たちの存在を消さないでください。私のことを認めてくれている人が、周りにはいます。そのことへの感謝を忘れないで欲しい一心で、この文章を書いています。

過去の私へ。プライドの高いあなたへ。

私は尊大な羞恥心と臆病な自尊心を飼い慣らして生きていきます。そのために、今は好きなように絵を描いてください。